

■ 会期：2004年3月15日(月)～4月1日(木) 12:00～7:00P.M.

日曜・祝日休館 入場無料

■ 公開審査会：3月17日(水) 6:00～8:30P.M.

■ オープニングパーティー：3月17日(水) 8:30～9:30P.M.

※3月17日(水)は公開審査会のため、5時30分以降はご覧いただけません。
あらかじめご了承ください。

※これまでの「ひとつぼ展」入選者約100名の作品ファイルも会場でご覧いただけます。

■ 審査員：● 葛西 薫 (アートディレクター)

- 金村 修 (写真家)
- 小林のりお (写真家)
- 平木 収 (写真評論家)
- 大迫 修三 (クリエイションギャラリーG8)

<敬称略>

公開の場でグランプリが決まる!
二次審査会を見にきませんか?
3月17日(水)6:00～8:30P.M. ※要予約



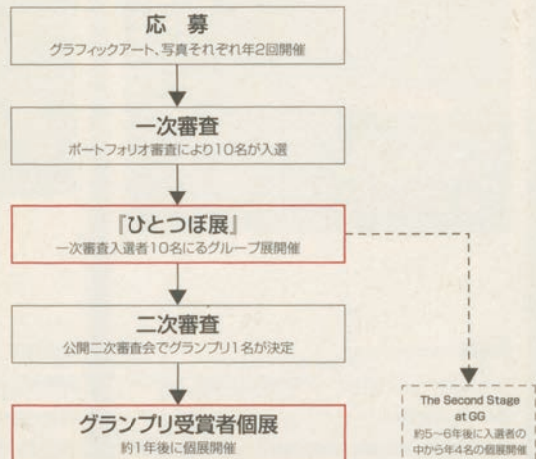
「ひとつぼ展」会期中に行われる公開二次審査会は、どなたでもご覧いただけます。

出品者10人が個展開催の権利をかけ、作品の説明や個展プランを自分の言葉でプレゼンテーションします。そして、出品者や一般見学者が見守る中、審査員による議論のすえにグランプリ1名が決定します。誰のどんなところが評価されてグランプリが決まるのか、ぜひ会場でご覧ください。

見学希望の方は、ガーディアン・ガーデンまでお電話にてご予約ください。3月1日より受け付けています。 TEL 03-5568-8818

これまでの公開審査会の様子は、
<http://www.recruit.co.jp/GG/> 「competition」ページをご参照ください。

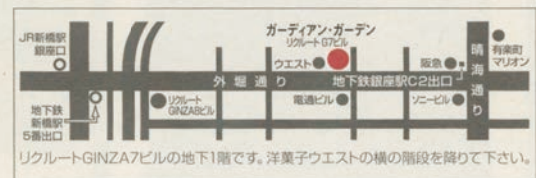
「ひとつぼ展」は、ガーディアン・ガーデンでの個展開催を最終目標とした公募展。ポートフォリオによる一次審査を通過した10名の出品者が、グランプリをかけて競います。一人に与えられたスペースは3.3㎡(1.82m×1.82m)。展覧会会期中に、出品者と審査員が直接対話をしグランプリを決定する公開二次審査会を実施します。グランプリ獲得者には1年間の制作期間を経た後に、個展開催が約束されます。



■ 次回作品募集：● 第23回 グラフィックアート「ひとつぼ展」
'04年5月24日(月) 締切

● 第23回 写真「ひとつぼ展」
'04年7月6日(火) 締切

※詳しい募集要項についてはホームページ「ART PARADISE」をご覧ください。
ガーディアン・ガーデンまでお問い合わせください。



■ お問い合わせ：ガーディアン・ガーデン

● 〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 リクルートGINZA7ビルB1

● TEL 03-5568-8818 ● FAX 03-5568-0512

● <http://www.recruit.co.jp/GG/>

ガーディアン・ガーデンとクリエイションギャラリーG8のホームページ「ART PARADISE」。「ひとつぼ展」の情報や、出品作家の作品などを紹介しています。

Guardian
Garden
PRODUCED BY RECRUIT

ひとつぼ展
ポートフォリオ審査を通過した10名による
第22回写真「ひとつぼ展」



第22回写真『ひとつぼ展』出品者



オノナホヨ Nahoyo Ono

1975年生まれ。写真表現大学修了。会社員
『ソラノアイダ』

空と地上の境界線が一体どこなのか、ずっとさがした。もしかしたら、
今ここにいる。ただこの場所なのかもしれない。



かんのさゆり Sayuri Kanno

1979年生まれ。東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン
学科卒業

『四角い逆光線』
日々デジタルカメラで街にもぐりこみ人々の営みを仄目に写真を
撮る。乱暴なほどの太陽の光が差す日は逆光に目を凝らし沢山撮る。
そのくりかえし。



佐藤誠 Makoto Satou

1979年生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業。アルバイト
『Sampling Sense』

何かを得るには、何かを捨てなければならない。僕は普段の意味を
犠牲にして、自分に必要な価値を見ていきたい。



中山京子 Kyoko Nakayama

1980年生まれ。武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科4年
『Naturalia』

空気の中へ私を拡散させてじっと世界を眺めて見ると、一瞬の
光景の中に不思議な気配が隠れていることに気づきます。見慣
れた風景の中に息づくそのような気配たちを写し取ってみました。



望月伸一郎 Shinichirou Mochizuki

1975年生まれ。アルバイト
『冬きたりなば春とおからじ』

2003年7月から、2004年1月まで、地元の風景を撮影。やがて
来る春に向けて、変化していく自身の内面を、風景に重ねていく
記録の、一つの形。



鏡康平 Kohei Kagami

1982年生まれ。東北芸術工科大学映像コース4年
『FAKE TRIP』

清水寺、金閣寺、東大寺、大阪城、阿蘇山、蔵王……。
そこにいるのは観光地と一体化した人々。彼らの一瞬一瞬が、
観光地をつくりだす。



菊地貴広 Takahiro Kikuchi

1978年生まれ。(株)バナナプランテーションスタジオを経て
フリー

『salmon's life』
移動することで出会う、ほっとけないほど意識が向くモノを写真に
することで、その意識を構成する様々な要素に触れることができ、
それは快楽となる。心がけていることは、きちんと撮ることです。



戸田基大 Motohiro Toda

1971年生まれ。東京ビジュアルアーツ専門学校卒業。会社員
『彼の寺』

その場所自体が永い歴史を持つ古い寺と、そこに暮らす一人の
人間の、ある一時期の時間の流れとそれに伴う環境の変化。それを
離れた街に暮らす友人という視点から記録した。



増山美穂 Miho Masuyama

1981年生まれ。武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科4年
『臨海ライブ』

空港近くの海浜公園には沢山の人が個々の動機で集まる。
サラリーマンや工事現場の人たちの休憩、カップルのデート、家族
でのボール遊び……。そしてわたしはカメラを向ける。



元木美由紀 Miyuki Motoki

1981年生まれ。東京造形大学3年
『学籍番号—number of students—』

大学という閉ざされた空間での生活。生徒はそれぞれの番号を持ち、
それぞれの時間を過ごす。
私達がいる大学という世界を見て欲しいです。